
白い雪

魔法戦隊三輪野助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い雪

【Nコード】

N2408B

【作者名】

魔法戦隊三輪野助

【あらすじ】

世界止めの番外編で一年前も蘭は組織のあの方であった。そんな蘭が雪を見た時の様子についてです。

プロローグ

一年前、蘭はきれいな雪を見ていた。

その時から蘭は組織のあの方である。

そんな蘭は雪を見ると心が癒されていた。

雪景色

とても真っ白な世界

降り続ける小さな霰

それがたくさん積もり

より真っ白に染まっていく。

時には私たちのような罪人も

雪の上を歩く。

白い雪が積もっている素晴らしい世界にも

黒い心を持つものも入り込む。

今の雪景色は完全に白い雪はうつっていない。

私も白い雪を黒い心で汚しているのだから・・・

プロローグ（後書き）

超下手です。

こんな文章ですみません。

1 # 下校

まだ降り続ける。

白くてさらさらな雪

幸せな気分になる雪

ー今は下校途中ー

慌て学校の門から出る蘭

慌て走っている蘭を校門で待つ新一

部活も終わって、私と新一は

一緒に下校している。

「もう雪が降ってきたのか・・・
随分と降ってくるの早いなあ。」

「うん……。でも雪ってとてもきれいだよ。

真っ白でさ……。」

「確かに雪は真っ白だな…。

雪は冷たいけど、積もってくるとききれいな白色の世界みたいでさ、

蘭の澄んだ心を表しているみたいだなあ…。」

うつん……。違うよ…新一

私は真っ白な雪にふさわしくないわ。

それに私は自分の黒い心で白い雪を汚しているのだから…。

でも私は白い雪が好き

心がとても落ち着くわ。私も白い雪にふさわしかったら良かったのにね…。

小2の時から私はすでに組織のあの方だったんだもの…。

あの子のまだ組織のあの方でない頃に戻ってもう一度みたいよ…。

――白い雪を

白銀の世界でもう一度真っ白な雪みたいよ…。

私は雪を見ると気持ちが悪くても切ない…。

雪は完璧ではない時がある。

多少黒っぽく染まる時もある。

でも汚れたものを溶かしてくれる。

私の黒い心も溶かしてくれる気がする。

雪には痕跡も残る。

私の足跡．．

それは罪人が残した足跡．．

歩くたび足跡は増えていく。

その中にも新一の足跡はしっかり残っている。

彼の足跡が増えるたび私の足跡も増えていく。

新一と一緒に歩くと足跡は増える。

罪人の足跡も混じってしまうような気がする。

蘭は、歩いている足を止めた。

「新一．．．」

「何？」

「あのさ、私の家あつちだから．．．

新一……　じゃあね．．．

また明日向かえに行くよ。」

「ああ……じゃあな。」

私は新一に手を振った。

私が汚れた組織のあの方だなんて聞いたら、

新一、絶対に心配する。

新一に心配をかけるなんて絶対に許せない！

私の悲しんでいる顔を見られたくない。

新一との時間を無理やり終わらせてしまった・・・

そしてそれぞれ自分の家の方へ向かう。

新一の足跡と私の足跡は

別世界へ行ってしまう・・・

一人ぼっちの雪の世界

雪はさらに強く降ってくる。

頭にたくさん霰が積もってくる。

とても冷たい。

マフラーまで冷たく感じる。

私は冷たい雪の世界の中で

家まで歩み続けている。

1 #下校（後書き）

まだ連載中の話がありますが連載書きました

この話は短いです。

ものすごく下手な文章です。

どうか評価お願いします

m ((m

2 #自然（前書き）

さっきとは違う視点です
自然を見て和む蘭です
でも見苦しい話です！

2#自然

私は家まで歩み続ける。

周りは果てしなく真っ白な世界

そんな世界にみとれて私は立ち止まった。

辺りを見渡してみた。

美しい自然がとっても豊富

木々も花々にも雪が積もっている。

木々は茂っている。

そして濃い緑という色を持っている。

そんな緑の木々と白い雪

重なっていてもとてもきれい。

雪がほかの色と混じってもきれいなものにはかわりはない。

バサッ！！

微妙な音がした・・・

木から雪が落ちる。雪は突然落ちてきた…。

落ちた瞬間、私は驚いた。

大量の雪は地べたに落ちた…。

落ちたときの雪もまた同じようにきれい。

白くてさらさらな雪

冷たすぎる雪

積もった雪には一輪の花が咲いている。

その周りにも花々は咲いている。

それらの花々は一色しかないけど、一輪の花は白も混ぜっっているように
うでより美しさを感じる。

白・・・それは、雪の色

そして純白な心を表す色であり、

最も明るさがでる色

一輪の花も複数の花よりも明るさがでている。

白い世界に包まれていて輝かしい。

一輪の花には小さな霰もついている。

霰はすぐに溶けて水滴になる。

そして地べたへポツンと落ちる・・・。

一瞬にして水滴は消えた・・・。

幻でも見ているかと思うぐらい早く消えた・・・

溶けた雪の水滴は今もなくなった。

失ってしまった・・・。

儚く散った小さな霰

しかし花は美しく咲いている。

簡単に溶けてしまっかけがえのない雪に包まれながら・・・

蘭は微笑んだ。

いろんな風景が雪と重なってみえたから・・・。

雪がより美しくみえたから・・・。

雪は積もったまま

ふっていた雪はとりあえずやんだ。

「さあてと…帰ろっかなあ。」

蘭は1人で一言つぶやいて止めていた足を動かし始めた。

再び家まで白銀の世界を歩み続ける。

蘭が雪の上で歩いたという痕跡だけ残して・・・

歩いているうちに家に着いた。

私はいつもと同じような声で

「ただいま」

と一言言って自分の部屋へ行った。

白い世界が消えて心に穴があく。

また白い世界に行きたいなあと思いつと玄関先を見る。

玄関先には溶けた雪

足跡も残っている

その足跡をたどっていけば学校まで着くのかな・・・？

2 #自然（後書き）

ワケのわからない話です！&下手です
すみません…

評価だけでもお願いします

m ((m

3 #部屋（前書き）

またまたちょっと変わった話です！

3 #部屋

私は今家の中

自分の部屋で真っ白な雪を眺めている。

さつき止んだ雪がまたかすかに降っている。

小さな霰

さらに白銀の世界を作り出す。

ここはだんだん白くなる

自然にあるものすべて白く染められて

美しく見える。

見た目黒が混じっていない。

でも私のような悪い組織のあの方も

雪の上を歩んでいる。

黒い心を持ちながら、白い道を通る。

私も組織も黒に染められた人物

いくら雪が白く染められていても

黒が混じれば灰色になる・・・。

灰色は決して悪いわけではない。

でも完璧な雪ではない。

組織が吸うタバコも黒みがかかっている…。

彼らが吸うタバコのせいで

白い空気さえも灰色に変わっていく。

はく息だって同じ

普通は白い息をはくのに

タバコを吸うと息は灰色へと変わる。

灰色の息は雪の周りに充満する。

雪が少し汚れる。

雪は完璧であって

きれいだといえる。

少しでも黒が混じれば、

何の意味もない降っているだけの雪になる・・・。

‘白い雪’だからこそ人々は雪に魅了される。

白い雪のように彼らの心は

白くならないのだから・・・

彼らは‘黒さ’だけをつきたしていく・・・

もとは真っ白だから

組織の黒さが入ったって

中和されて灰色。

でもそれは嫌

半分の世界は白く染まったって

半分の世界は黒くなっているから・・・

私は自分の部屋で雪だけを見ている。

蘭の瞳に見えるものは窓の外の雪だけ・・・

雪は自分の心を白くしてくれそう・・・

見れば見るほど純白な心に戻る気がする。

もう夕方

辺りはもう暗い。

暗い中降っている雪もまたきれい。

完璧まではいかないけれど・・・

黒を溶かすように降り続ける雪

魅力的だ。

ふと時計をみた。

もう6時になっていた。

「ふつう・・・」

背伸びをして一息ついた。

急に今日の予定を思い出した。

近くにあるメモ帳を取った。

予定はいろいろ詰まっている。

今日の予定では

11時 59分

ベルモットと米花駅で待ち合わせ

ベルモットが私に話したいことがあるみたい・

何なんだろう？

私は気になった。

そして米花駅に行く準備をした。

3 #部屋（後書き）

最後わけのわからないおわり方をしてしまいました。

せめて評価をお願いします

○（――＊）○

4 #黒い者

11時 59分

ベルモットと米花駅で待ち合わせ

蘭は夕食を取らずに手袋、コート、マフラーなどの用意をして置いた。

「蘭・・・夕食食べないの・・・?」

「ごめん・・・お母さん今日は夕食いらない・・・。」

「え、どうして・・・」

蘭、何かあったの?」

「ううん・・・別に何もないわ。」

今日は食欲がないだけよ。

ちよっと休ませてくれる?」

私はお母さんとしやべる気にもならなかった。

今はベルモットのことです頭が精いっぱいだから・・・

ベルモットが私に何のようがあるのか

気になった。

ベルモットは私に何を告げるつもりなんだろう。

部屋にはストーブがついている。

今、部屋はとても冷え込んでいる。

そう、窓から見える白い雪のように

冷たい・・・。

そんな空気が部屋中に漂っている。

白い雪は止んだ。

雪が止んだあとも白銀の世界は

一面に作られていた。

外の周りが真っ白すぎて

引きつけられていくように窓に近づいた。

白い雪を堂々と歩く

黒いの者のことが脳裏に浮かぶ。

その人物は白い雪に足跡を残している。

時間がたてばたつほど足跡は増えていく。

白い世界へ黒い者どおし入ってゆく。

「ベルモット……」

蘭は雪景色を見ながら

脳裏に浮かぶ人物の名前をつぶやいた。

時間は近づいている。

蘭はベルモットの言いたいことが気になった。

どこを見わたしても白い雪の世界

もつすぐベルモットとの待ち合わせ時間

私は、出かけるための支度をした。

マフラーに手袋、コートを着用する。

コートの色は白色

雪と同じ色

私は支度が終わった後、すみやかに家を出た。

白い雪の上を歩く。

白銀の世界の中ずっと歩み続ける。

ベルモットが待つ米花駅まで・・・

4 #黒い者（後書き）

ごめんなさい〜…話がわかりにくいですね……………

あと二話で終わると思います。
すみません…

どうか評価お願いします

m ((m

5 #ベルモットの言葉（前書き）

ベルモットが言いたいことについてです

5 #ベルモットの言葉

米花駅 11時50分

ベルモットはすでに

米花駅の外で待っていた。

白い雪を悲しそうに見ながら・・・

やっと米花駅にたどり着いた。

雪は、車が残す跡や足跡で

消えかけている。

だんだんなくなつて

溶けかけている。

私はベルモットの話が聞きたい。

「あのさ、ベルモット・・・」

「何・・・？エンジェル？」

「私はエンジェルなんかじゃないわ。」

「今じゃ冷酷な組織のあなただから・・・」

「そう、ごめんなさい…。」

私があなたに救いを求めたから・・・」

「い、いや……気にしなくてもいいわ。」

それより私はベルモットの話が聞きたいんだけど……」

「ああ……実はボスのあなたの知らない間に

組織が動きだしていることを知っている？」

「えっ…？ どういうこと？」

「最近、ジンとウォッカが頻繁に動き出したの……」

「ジンとウォッカは何をしているの？」

「今年の春、4月〇日にいや新学期になってから

某会社と取引をするみたいなの……」

「ジンとウォッカは何をするつもりなの？」

「今年の春、4月〇日にいや新学期になってから

某会社と取引をするみたいなの……」

「何が目的で何の取引をするの？」

「さあ……私もジンたちの行動範囲はわからないわ…。

ただ今の組織はあなたの知らないところで

自らを黒く染めているわよ。

この雪が日々たつとだんだん黒くなっていくのと同じでね。

初雪の頃は本当に白かったのにね…。

いつの間にか完璧な白い雪は消えてしまったね……。」

組織は変わっていた。

私の知らないところで…

私の目を欺いて自らを黒く染めている。

雪も車がひいていくたび、

人々が歩くたび、

汚れていく。

私が思う完璧な雪はもう遠くへ消えた…。

雪は水になって溶けかけている。

私もジンたちの行動を止めなければいけない…。

彼らをこれ以上黒く染めたくないから・・・

「あ、そうだ…ベルモット……彼らの取引場所は？」

「トロピカルランド。」

もっと詳しく言うならば観覧車前で取引らしいよ。」

「じゃあ…その日にトロピカルランドに行くわ。」

彼らの行動を探るために……」

「ダメよ。エンジェル……」

「えっ……どうして？」

「あなた1人だとジンたちに

自分たちを探りに来たと疑われるわ……

あなたの身近の人々を誘ったほうがいいんじゃない？

そのほうが彼らもあなたを

探りに来たとは疑わないわ。」

身近な人か……

4月〇日に用事がない人いるかな？

えっと、お父さんに

博士、園子

あとは新一かな？

誰かトロピカルランドに行ける人いないかな？

「ベルモット．．」

「何．．．？」

「明日、身近な人でトロピカルランドに誘ってみるわ．．．」

ジンたちの行動を探るため

そのために私の大切な人々を利用するのは悪い事

分かっているけど、

黒く染まっていくな ジンたちを

ほっておくことはできない．．．

彼らにだって白さは残っているはずだから．．．

取引で今のジンたちの行動を探り、

それをもとにしてジンたちを徐々に白くしたい。

初雪のような白さに

戻したい。

でも蘭の密かな願いは、

叶わなかった・・・

白くなるどころかさらに黒を増していくとは

蘭も考えつかなかった。

5 #ベルモットの言葉（後書き）

話がめちゃめちゃ&下手ですみません…

某会社とトロピカルランドで取引する話は

最初の事件です。

新一が幼児化したときの事件

設定は蘭が高一の頃雪が降っていた冬に関しての話です

下手な文章なのでわからなかったらすみません…

最初に一年前って書いてあるので
蘭が高一の頃の話なんです

どうか評価お願いします

o (_ _ *) o

6 #雪は溶けてきた

雪は溶けていく。

そして夜明けは近づいてくる。

ベルモットとの時間も消えていく・・・

雪は徐々に形を変えて

水へと変化しつつある。

あんなにきれいだった雪も

あっという間に消えていく・・・

白銀の世界も消えている・・・

このときに私の黒く染まった心まで

溶かしてほしかった。

雪は溶けても

私の黒さだけは溶かしてくれなかった。

ベルモットともしやべっていない・・・

時間が大幅に減っていくだけ……

気まずい時間

「エンジェル．．

もうあなたに話すことはないわ．．

帰ってもいいよ．．．

もうすっかり夜明けになっているから．．．」

「ベルモット、急にどうしたの？」

「あなたに話すことは話したわ。

これ以上あなたの時間をつぶすのも悪いし、

家に帰ってもいいよ．．．．．」

ベルモットの少し寂しそうな表情

私がいなくなることさびしがっているのだろうか．．．

私は決して見逃さなかった．．．

ベルモットはいつもと違って

秘密主義のベルモットではなかった。

彼女は私に見えないよう涙を流していた。

これが本当のベルモットの素顔なんだと実感した。

ベルモットをみると家に帰ることもつらかった

私は歯を食いしばり、

走って家に帰った。

家に着いた。

もうそこには白銀の世界はなくなっていた。

昨日の足跡も消えていた……。

周りに小さな雪が残っているだけで、

あとは雪で濡れた地面に変わっていた。

一息ついてからこそつと家の中に入った。

それからは、何もなかったのように

お父さんやお母さんのいる部屋に入った。

「よう、蘭今日はやけに早えじゃねえか・・・」

「朝食ならまだよ。」

「あ、いや……お父さんやお母さんのほうが起きるの早いわよ。」

あのさ、突然いうけど、だいたい先の話だけと……

4月〇日にトロピカルランドに行ける？」

「えっ…なんで急にそんなことを言い出すの？」

それと4月〇日じゃないとトロピカルランドに

行けない理由でもあるの？」

「別に……特にないわ……」

その前は大会で忙しいし4月〇日には

大会も終わった後で

土曜日だしどうかなと思って……」

「ああ……悪いけど、その日は依頼があるのよ……

いろいろと予定が詰まっているわ。」

「オレもその日は依頼があって忙しいんだ。

悪いけど、他のやつ誘ったらどうだ？」

「そっか……今日博士や園子に聞いてみるね……」

「あの探偵ボウスには聞かねえのか？」

「新一は、事件で忙しいから来ないと思うよ・・・それに…」

「それになんだ？」

「あ、別になんでもないわ…。」

それに新一とトロピカルランドに行くと

新一の身に危険があるような気がして

新一を失うような気がして怖い・・・

私には不安があつた。

朝食をとらずに外に出た

外には少しだけ雪が残っていた。

蘭はジンたちの取引を止めること

そして白い心に戻すことを誓った。

6 #雪は溶けてきた(後書き)

すみません…ベルモットの心情はこの場面にはいれませんでした。
最後におまけでこのときのベルモットの心情についていれようかと思
います。

下手&めっちゃめっちゃです評価お願いします

m(――)m

評価の返信は木曜日ぐらいにまとめてします。

今は執筆が大変&他のことで忙しいので…

すみません

どうか見捨てないください

7 #新しい季節（前書き）

長いです

7 #新しい季節

トロピカルランド

やっぱり・・・行くなら新一とがいいなあ……
でも新一の身に危険を感じる。

嫌な予感がする・・・

まだ少しだけ残っている雪
白さを保ったままだった。

私は雪のように白さを保てなかった

はああ・・・

ため息をついた

そしてしゃがみこむ

どっちみち新一は、事件で忙しいから

トロピカルランドに行けないよね……

博士が園子でも誘おっかな……

新一の家に行く途中にでも
博士と園子にトロピカルランドに行けるか聞いてみよう

学校行くまでにまだ時間はある

それまでは軽く朝食を取る

窓の向こうの少量の白い雪を眺めながらトーストからパンを取り出す。

椅子に座ってからパンにジャムをつけてから食べる。

‘雪が溶けたなあ’

1人ことを勝手につぶやく

パンを食べ終えたあとすぐに学校に行く支度をする。

博士の家へ向かう。

ピンポーン

チャイムを何回も何回も鳴らす。

「誰じゃ・・・こんな早い時間から・・・って蘭君
どうしたんじゃ？」

「博士、ごめん…急になんだけど4月〇日ってトロピカルランドに
行ける？」

「えっ…4月〇日？」

なんでその日にこだわるのじゃ？
他の日に行けばいいじゃろ？」

「それは、4月〇日は春の空手の大会が終わる頃だから
久しぶりにトロピカルランドに行きたいなあと思ってね…。」

「そうか……悪いのお」

ちようど4月〇日は友人と近くのレストラン『コロンボ』に行くこ
とが決まっているんじゃないよ。」

「そっか…博士にはもう予定があつたんだ。
じゃあ園子でも誘うか…。」

「あれ・・・？新一君は？」

「新一はアイツは事件で忙しいから、」

トロピカルランドに遊びに行かないと思うよ。

博士ごめんね。じゃあ私新一を待っているから。」

博士と別れた後、私は新一の家の前に行った。

雪はだんだん溶けていく

そして水滴になる

花や草が生い茂る

立派に生長する

新しい季節を告げるかのように・・・

冬は過ぎていく

自然が春に近づいてくる

雪は幻のように溶けていく

私の黒くなつた心は溶かさないまま・・・

新一は家を出るのが遅い

その間私は携帯電話で園子と電話

プルルルル

『はい、もしもし蘭？』

「うん、園子ちょっと急な話で先のことだけど・・・
4月〇日用事とか予定ってある？」

『4月〇日？』

「うん、あつたら別にいいけど・・・」

『蘭、ごめんね…実は4月〇日は

鈴木財閥の中でパーティーがあるのよ。
もうそれは決まっているからごめんね』

「別にいいよ・・・」

蘭は悲しそうな顔をして電話を切った。

家の前で新一を待つ

園子と博士はトロピカルランドに来ないのね。

お父さんもーお母さんも用事があるみたいだし・・・

あと誘っていないのは新一だけ

でも新一を誘うとこれから何かが起こる嫌な予感がする・・・

いいのかな……？

いつものように慌てて家を出る新一

「よお、蘭！！遅れちまったなあ……」

「新一……」

「どうした？蘭」

「あのさ、急にだけど4月〇日に一緒にトロピカルランドに行こ！
」！」

「えっ…なんで4月〇日にトロピカルランドに行くんだ？」

「そ、それはえっと

春の空手大会が終わったあと久しぶりに遊びに行きたいなあと思っ
て・・・」

本当はジン達の取引を偵察するためだけ

そんなことは新一に言えるわけがない

とつさに、空手大会の後、を利用して言った。

「じゃあ、こういうのはどうだ

蘭が空手の大会で優勝したらトロピカルランド行くっていうのは・

」

「空手大会で優勝なんて一度もないわよ。」

「大会の結果なんてまだわからねえよ・・・

優勝する可能性だって0ではないだろ？優勝したらトロピカルランドに行こうぜ。約束だ」

「うん、分かった。」

とりあえず空手の大会で優勝したら、新一とトロピカルランドに行くことになった。

あんなに真っ白な雪はもうすべて水滴になった。

白銀の世界もあつという間になくなった

昨日の雪がウソみたいに消えた。

冬が過ぎ春になって桜が散る頃

新一と蘭は学年が上がり、二年生になった。

新学期早々

空手の大会があった。

蘭はなんとかライバルたちに勝って優勝した。

約束通り、新一とトロピカルランド、に行くことになった。

トロピカルランドにはジン達はいた。

蘭はジン達の偵察

蘭が思っていた嫌な予感は的中した。

トロピカルランドの帰り

新一はジン達にAPTX4869を投与され、幼児化した。

新一は小学生として、江戸川コナン、と名乗った。

そして私の家に居候して組織についての情報を調べたりした。

それからコナンの推理で組織についていろいろとわかった

コナンは組織の一員と対決して見事に勝った。

そして蘭が組織のあの方であることまで

分かった。

いよいよたどり着いた。

組織との最終決戦まで……

それは蘭との決戦

7 #新しい季節（後書き）

すみません… 最終話です

ベルモットの心情についてはいつか短編で・・・

番外編の番外編ってことで・・・

最後はずいぶん略しました

すみません

最後まで下手でした

駄文ですが評価お願いしますm(_____)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2408b/>

白い雪

2010年10月14日17時57分発行